

昨年は、9月に関北山や中庭でスズメバチの目撃情報がありましたが、今年も本日、校庭開放倉庫付近でスズメバチが確認されました。すでに飛び去っていますが、巣が近くにあるのかどうかは分かりません。学校内で見られたということは、学校周辺の地域でも見られるということです。子どもたちだけでなく、保護者、地域住民の皆様も十分お気を付けください。以下は、昨年度ホームページに掲載した内容ですがあらためてスズメバチについての参考資料としてお示しします。

#### 〔スズメバチと人間〕

スズメバチに刺されて、毎年数十人もの人が亡くなりますが、スズメバチと人間との関係はとても古く、紀元前3100年ごろ、古代エジプトの初代の王であるメネスがスズメバチに刺されて死んだことが墓碑に象形文字で刻まれていたそうです。

スズメバチの本来の生息場所は、雑木林の中です。ところが、今日、人間が大きな開発事業を打ち立て、スズメバチの生息場所である雑木林を破壊し、自然体系・生態系を変えてしまったのが、スズメバチが住宅地に多発する主な要因です。スズメバチは、一旦は、住宅や建物で本来の生息地を追われても、その場所を忘れず、数年後には必ず舞い戻ってくる習性があるので、その住宅の付近に巣を作り始めます。

#### 〔スズメバチの種類等〕

スズメバチは、スズメバチ上科スズメバチ亜科に属するハチの総称で、世界では4属67種、日本では3属16種類が生息しています。スズメバチには、巣を一つの単位とした集団生活をする、機能〔役割〕の分担がある、カスト分化〔女王バチ、働きバチ、オスが存在する〕という共通性が見られ、社会性のハチ類といわれ、最も進化したグループだそうです。

いずれの種類も、生活史は1年限りです。スズメバチの巣は、巣盤が何段にも重なっており、外皮に覆われています。営巣場所は、土の中、樹洞、天井裏等の閉鎖空間から、軒下や樹枝等の開放空間まで、多岐にわたります。営巣規模は、最も小さなヒメスズメバチでも育房数が200～400房、キイロスズメバチでは、10000房を超えることもあります。

日本では、活動が盛んで、よく目にするのは、オオスズメバチ・コガタスズメバチ・キイロスズメバチ・ツマグロスズメバチ・ヒメスズメバチ・モンズメバチ・チャイロスズメバチの7種類です。

#### 〔スズメバチの1年間〕

スズメバチの1年間の生活は、北海道や沖縄地域を除いて、それほどの違いはありません。基本的には、前年の秋に誕生し、越冬した女王バチは、4月から6月にかけて、一匹だけで働きバチの巣作りをします。最初の働きバチが羽化するまでの約1ヶ月間〔単独営巣期〕は、女王バチが一匹で外役活動〔餌や巣材集め〕を行い、子育てもします。この時期は、攻撃性が少ないので、巣の駆除がしやすいと言われています。6月から7月にかけて働きバチの羽化が本格化すると、女王バチは産卵に専念するので、巣は急速に大きくなります〔共同営巣期〕。

9月下旬から11月にかけて、オスバチと新女王バチが相次いで誕生し、その幼虫が育てられるようになると、新しく働きバチが育てられることはありません。そのため、働きバチの数が次第に減少し、巣全体が餌不足に陥ると、働きバチは育房から幼虫を引き抜いて肉団子にして他の幼虫に与えます。また、弱った幼虫を引き抜いて、巣の外に捨てることもあります。スズメバチのように集団生活をするハチの巣では、幼虫が非常時の食物貯蔵庫としての役割も担っていることとなります。

交尾のために巣を離れる頃には営巣活動を停止し、巣内の働きバチの数も急激に減り、スズメバチの交尾は巣の外で行われ、多くの種では午前中、特定の場所にオスバチが集まって飛び回り、そこへ巣を離れた新女王バチが飛来し、交尾をします。

交尾を終えた新女王バチは速やかに越冬場所に移動し、そこで越冬します。越冬場所は雑木林内の朽木や土の中などで種により異なります。越冬は、通常単独で行われますが、都市部では集団越冬する事例も見受けられます。そして、冬には、スズメバチの巣は空になり、その利用はいずれの種も1年限りで、翌年に再利用されることはありません。

#### 〔スズメバチの毒針〕

ミツバチは幼虫のえさに花粉や蜜を与えますが、スズメバチは、いろいろな昆虫を肉団子にして巣に持ち帰ります。ですから、スズメバチは巣に蜜を蓄えることはありません。スズメバチが蜜を舐めにやってくる花には、いろいろな昆虫がやってくるので、幼虫のためにえさを狩る格好の場所にもなっています。そして、スズメバチの大きな巣では、年間約1万匹ほどの働きバチが生まれるので、害虫も含め、捕食性天敵としての役割も十分にあると考えられます。

また、「ミツバチは一度刺すと死ぬ」と言われていますが、スズメバチは違います。ミツバチの毒針には、釣針のような「かえし」がついていて、刺した針は腹部の末端から敵の体内に残るので、ミツバチは死んでしまいます。しかし、スズメバチの毒針の構造は異なっており、刺した相手から抜けやすくなっているので、死ぬことはありません。つまり、何度でも刺すことができるのです。

#### 〔スズメバチの攻撃性〕

スズメバチ、アシナガバチ、ミツバチ等の集団生活をするハチは、外敵から巣を防衛する手段として攻撃性が発達しています。そのため、直接、間接を問わず、巣に刺激を与えると毒針を武器に攻撃してきます。

毒針は産卵管が変化したもので、刺すのはメスだけです。巣を守るという役割は働きバチと呼ばれるメスが受け持っています。女王バチも毒針を持っていますが、働きバチほど攻撃的ではありません。女王バチによる単独営巣期には、巣をついても女王バチはそのまま逃げ去ることが多いそうです。

スズメバチは、巣に危害を加える〔当方はそう思っていなくても、スズメバチがそう思えばそれまでです〕外敵に向かって、捨て身で攻撃を仕掛けてくるので、虫除けスプレー等は全く役に立ちません。

スズメバチがそばに寄ってきた時の対処の仕方は、状況によって異なりますが、一般的に言って、攻撃性は巣に近いほど強くなります。ただし、巣から離れてえさ集め等をしているハチの側から攻撃してくる可能性はとても低いと言われています。ですから、車の中や室内にスズメバチが入ってきても、絶対にあわてず、つかんだりしない限りは刺してきません。落ち着いて車を止め、窓を開けて、飛び去るのを待ちます。

スズメバチの巣の至近距離に近づくと、偵察バチがやってきて、敵の周りを飛んで警戒します。この時、敵の正面で大あごを噛み合わせて、カチカチという音を発することがあります。これは最後通告ですから、すみやかに、しかしゆっくりと後ろに下がらしましょう。このような行動をしているスズメバチに対し、手で払おうとすると確実に刺されます。スズメバチを殺したり、逃げ回ったりすると、攻撃されたと考え、仲間を呼んできてから、一斉に攻撃してきます。刺した後、さらに興奮し、体液を振り撒き、仲間を呼び寄せながら、さらに凶暴になります。普通のハチは、体が相手にぶつかった瞬間に反射的に刺し、すぐさま針を引き抜き相手から離れるのが一般的な攻撃スタイルですが、スズメバチの場合は、再度体勢を立て直し、攻撃してくるだけでなく、毒液〔興奮物質〕を相手の体や衣服に向けて撒き散らします。この液体が目に入ると失明につながることもあり、危険です。さらに、この毒液は警報フェロモンの働きをもっており、速やかにその場を離れないと、さらに多数のハチの攻撃を受けることになって、きわめて危険です。体当たりした際に6本の脚で相手にしがみつき、大顎で噛みついたまま何度も刺します。

スズメバチの毒針はミツバチのように人を刺しても抜けることはなく、毒のある限り何度でも刺すことができます〔毒針の尖針の部分が交互にスライドして、皮膚を切り裂きながら刺さっていきます〕。

ところで、スズメバチが音を出して警告するというのは、スズメバチの主な敵が音を聞き分けられる生物であったということです。スズメバチの毒が哺乳類に特異的に痛みを起こす成分を含んでいることを考え合わせると、スズメバチの主な敵は、巣にたくさん詰まった幼虫を狙う哺乳動物ということになるのでしょう。

#### 〔スズメバチによるアレルギー性ショック〕

人がスズメバチに刺されて死ぬというのは、ハチ毒成分によるというより、アレルギー性ショックによると考えられます。ハチ毒アレルギー体質の人では、過去に刺された時に体内にできたハチ毒に対する抗体が、2度目に入ったハチ毒に過敏に反応して、血圧低下やその他の症状を引き起こすので危険です。ハチ毒自体に溶血その他の生理作用があることは確かですが、1・2ヶ所刺された程度の毒量では、痛いのは確かですが、生命に別状はありません。

俗に、「ハチに刺された時には、アンモニアをつける、小便をかける」と言われていますが、これは全くの誤解で、スズメバチの毒液は殆どタンパク質からできており、中性に近いので、アンモニア〔アルカリ性〕で中和しようとするのは無駄なことです。キンカン等の虫刺されの薬は役に立ちません。もし、刺されてし

まったら、抗ヒスタミン軟膏やステロイド軟膏(副腎皮質ホルモン軟膏)を塗り、氷または水で冷やします。すぐに毒を口で吸い出すのもいくらかは効果があります。毒を吸い出すには、専用の道具を使う方が優れています。とにかく少しでも早く毒を体外に出すことが必要です。吸えない箇所は、摘んで搾り出す等工夫が必要です。また、スズメバチの毒は水に溶けやすいので、水でよく洗って毒の濃度を薄めると効果的です。

ところで、スズメバチに2回以上刺されると生命に危険が及ぶということは、全くの誤りではありませんが、誰もが花粉症にかかるわけではないのと同様に、ハチ毒アレルギーをもつ人は総人口のごく一部です。しかし、刺された後に、全身のじんましん、腹痛、めまい、意識朦朧または意識不明、呼吸困難等の症状が出た時は、アレルギー症状である恐れが強いので、直ちに医師の手当てを受けるために、救急車の手配が必要です。ハチ毒アレルギーショックで死亡する場合は刺されてから1時間以内であることが多いので、一刻も早い処置が必要です。

- ・ハチ毒アレルギー体質の人〔ある種の抗体をもっている人〕は、刺されてから15分～20分で、顔面蒼白・震えが来る・吐き気を催す・昏倒、やがて数十分後には死亡に至ることがあります。
- ・それ以外の人でも、刺された箇所は真っ赤に晴れ上がり、熱をもって激痛に襲われます。

#### (スズメバチから身を守る方法)

スズメバチに刺されないためには、

- ・巣を見つけたら、近づかずに、すぐに遠ざかります。スズメバチは集団で巣を守っているので、巣を壊すようなそぶりをしたら、必ず攻撃されます。
- ・スズメバチは、激しい動きや大きな音・声、きつい匂い等に敏感に反応し、襲ってきます。手で追い払うようなことはせず、速やかに逃げます。巣の近くでタバコを吸ったりしても襲われます。
- ・スズメバチの眼は白と黒しか判断できないそうです。特に、黒色に対しては敵対心を表しますので、黒系の服装には注意が必要です。黒という色は、スズメバチの天敵であるクマの色で、本能的に攻撃態勢をとるそうです。山を歩く時は、白系の服がよさそうです。

スズメバチの中で、人を刺すのはメスですが、もし襲われた時は、

- ・地面に張り付いて動かない。ハチがあきらめて帰るまでじっと待っている。
- ・逃げる時には、目を隠して逃げる。スズメバチは目を狙って襲ってくる。
- ・2キロ程度も追いかけてきたという報告もあるので、完全に引き上げるまで安心しない。
- ・長い髪に寄ってきやすいので、見かけたらスカーフ等で髪を隠す。

等の対応をとることが大切です。

今の時期のスズメバチは、人を刺すことが目的で飛んでいるのではなく、巣を大きくするために、かなりの距離を飛ぶことがあるのだそうです。

#### (スズメバチの巣を確認したときの対応)

スズメバチの巣を確認したら、その駆除をしなくてははいませんが、その駆除については、練馬区生活衛生課環境衛生監視担当係〔☎5984-2485〕に報告し、そこから専門の業者に連絡が入ることになっています。

以 上